

MACF 礼拝説教要旨

2025年4月13日

「十字架上の7つの言葉」

今朝はイエス様の十字架を思い巡らしつつ、十字架の上で語られた7つの言葉を取り上げたいと思います。

苦しみと痛みの中で発せられたイエス様の言葉は、いわば「遺言」というか「心からの最後の思い」として

とても重大な意味を含んでいると思います。

それらの言葉を思い巡らしながら、イエス様の心の中にあった「神様の願い、思い、そして愛」をしかり、

受け止めたいと思います。

第1の言葉:(ルカ 23:34)

〔そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」(ルカ 23:34)

午前9時に十字架につけられた時にイエス様が発したとされる最初の言葉です。

* イエス様が自らを犠牲にして他者を赦す心が表明されています。

先週もお話しましたが、これは、自らを十字架に追いやったすべての人たち、イエス様に反抗している人たち、

神を神とせず無礼な態度を改めようとしぬ人たちすべてに関して、父なる神様に赦しを願うことばです。

そして、すべての罪ある人たちに対する神様からの怒り、憤り、呪いなどのすべてをイエス様が引き受けようとして

おられる執り成しの言葉です。私を十字架につけようとする心を持った全ての人たちの責任を私が果たしますから、

どうぞ、私を裁き、彼らをお赦してください、という祈りです。ここに「愛」があります。

第2の言葉:(ルカ 23:43)

「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。(ルカ 23:43)

このエピソードの詳細は、ルカによる福音書 23 章にあります。

39 十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」

40 すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れぬのか、同じ刑罰を受けているのに。

41 我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」

42 そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。

43 するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

* ここにはイエス様の罪人に寄り添う心が溢れています。

イエス様はご自身がこの十字架の苦しみ後にどこに行くかご存知でした。苦しみ抜かれたのちに

「楽園」(パラダイス)に行くということを知っていました。そして、隣にいた受刑者の一人に向かって「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われたのです。

この人は、以前から信仰を持っていた人ではありません。十字架の上で苦しみながら罵り返すこともせず、ゆだねきっている

イエス様を見て、何か感じるものがあり、イエス様に対する信頼、信仰を持ったのです。そして、苦しみの中でそれを表明しました。

それに対するイエス様からの返答は、希望の言葉でした。裁きの言葉ではなく寄り添う言葉でした。どんなにか安心したことでしょう。

第3の言葉:(ヨハネ 19:26~27)

「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」

「見なさい。あなたの母です。」

これはヨハネによる福音書の中にある言葉です。

25 イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。

26 イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。

27 それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。

(ヨハネ 19:26~27)

* ここには母を思う心、十戒の中にある「父と母とを敬いなさい」という言葉の実行を見ることができます。

死の苦しみ、痛みの中でイエス様はお母さんのことを心に留めていました。お母さんへの尊敬と愛がありました。

弟子のヨハネに母マリアを託したのです。イエス様の人間としての、あるいは息子としての母への思いを垣間見ることができます。

最後まで息子としての意識をもって母を支援すべく思いをそこに向けていたことがわかります。

第4の言葉:(マルコ 15:34)(マタイ 27:46)

三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てに

なったのですか」という意味である。(マルコ 15:34)(マタイ 27:46)

* イエス様にとって最大の苦難「見捨てられる痛み」が表明されています。

それまでイエス様は「神さま」に対して「父」という言葉を用いていました。この十字架での午後3時頃の大声での叫びは「父」ではなく

「我が神」という表現になっています。十字架の上での最初の言葉は「父よ」でした。ここでは「我が神」となっています。

詩編 22 の言葉を引用したのではないかとされていますが、大声でそれを叫んでいることから、たとえ引用だとしても、

単なる引用ではなく、自らの出来事として語ったに違いない叫びです。

すなわち「父と子」という関係ではなく「罪人総代表と聖なる神」との向き合いの中で苦しみを表明しているものと理解されています。

神様の清さをご存知だからこそ「十字架で罪あるものとして受けている苦難」の深い痛みを感じておられたにちがいません。

裁かれる側に立っているイエス様の叫びです。

そして、断罪され、見捨てられるという痛みをイエス様は通過しておられます。それは私の通るべき道、私が叫ぶべき言葉だったかも

しれません。赦しをもたらすための苦難の言葉です。

第5の言葉:(ヨハネ 19:28)

「渴く」

28 この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渴く」と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した。

29 そこには、酸いぶどう酒を満たした器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソブに付け、イエスの口もとに差し出した。(ヨハネ 19:28)

ここに書かれている聖書の言葉が実現したと言われている箇所は詩編 22:16

口は渴いて素焼きのかけらとなり、舌は上顎にはり付く。

あなたはわたしを塵と死の中に打ち捨てられる。

詩編 69:22 人はわたしに苦いものを食べさせようとし

渴くわたしに酢を飲ませようとしています。

詩編 42:3 神に、命の神に、わたしの魂は渴く。

いつ御前に出て神の御顔を仰ぐことができるのか。

* ここにはイエス様の深刻な霊的な、そして肉体的な渴きが表明されています。

霊的な渴きとは、神様との断絶、いのちと関係が断ち切られる痛みと苦しみであり、肉体的な渴きとは十字架における

肉体的な痛みと渴きが表明されました。究極のどの渴きを私たちは知りません。

私たちのために打たれ、苦しめられ、これらの渴きをイエス様は通過されました。その心の渴き、神との断絶による渴きは、

私たちの想像をはるかに超える苦しみだったに違いありません。

第6の言葉:(ヨハネによる福音書 19章 30節)

「成し遂げられた」

30 イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。(ヨハネによる福音書 19章 30節)

* ここにはイエス様の救い主としての役割の完遂、達成・勝利の宣言が表明されています。

預言の完了という意味だけでなく、ご自身の十字架での役割の終了も意味する言葉と理解することができますでしょう。

イエス様がお生まれになる前にその役割が預言されていました。マタイによる福音書 1章 21節「マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」まさに民を罪から救うための「あがない」としての十字架の役割が完了し成し遂げられたのです。

第7の言葉

イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。(ルカ 23:46)

順序としては第6の言葉と続けて語られたものだと思います。

最終的にはイエス様は、自らのすべてを父なる神におゆだねし、お任せして地上でのいのちが終わりました。

* 父なる神様に対する信頼の心です。神様にお委ねしお任せする心です。

自分の地上での役割を完遂し、苦難の中でありながら安心して父なる神様を信頼し、お任せしているすがたです。

この十字架の出来事と、その言葉の中に「イエス様の愛」「イエス様の生き方」「イエス様の信頼」が私たちに

届けられているとうなづけたとき、十字架は本当に意味深いものになります。

神のひとり子イエス様が、まさに、苦難の中でご自分の心を明確に表明してくださったからです。

* * *

youtube での MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/eSR3iNIMaeY>